

北館ノースウイングから オープン初日レポート

ノースウイングでの診療第1日目を迎えた7月22日(火)は、職員にとっても、まっさらな始まりの1日。記念すべき初日の様子を、写真とともにお伝えします!

受付が簡単
できますよ

1F



再来受付機(お待たせしない受付)が登場!

何でも
お尋ねください



院内について丁寧に説明します。

最高の医療と
おもてなしを!



患者さんについて最終確認する
医師とスタッフ。

産婦人科 受付 **2F**
Obstetrics and Gynecology Department
婦産科 産婦人科



オープン直前、緊張する産婦人科受付スタッフ。
でも笑顔は忘れません!

広がって
動きやすくな
りました!

4~6F



救急医療センターのスタッフ。

受付ロビーは
ゆったりとした空間。

吹き抜け天井で、たっぷりの開放感。

1階にはコンビニも登場。
ますます便利になりました。

機能的なスペースのナースステーション。



安全第一
です!

駐車場

駐車場の整備は私たちに
おまかせください。

広々とした病棟の廊下。

松波総合病院 ノースウイング

- 診療科 / 27科 (一部、まつなみ健康増進クリニックで診療)
- 設備・施設 / 外来、手術室7室 (内1室はハイブリッド手術室)、手術支援ロボット「ダヴィンチ」、ICU (集中治療室) 8床、HCU (準集中治療室) 20床、内視鏡室3室、ヘリポート (屋上)、救急医療センター
- 検査機器 / 3テスラMRI、320列マルチスライスCT、移動式血管撮影装置など

※松波総合病院は、地域医療支援病院、救急指定病院、災害拠点病院の認定を受けています。

**引っ越しのご協力、
ありがとうございました。**

7月21日(祝)に、南館から北館への大移動が行われました。職員が最も注意を払ったのが入院患者様の安全面です。正午には、急変もなく、全員無事に搬送することができました。

外来診療のご案内

ノースウイング(北館) ●初診の方は紹介状をご持参ください。

- 眼科 ■ 泌尿器科 ■ 健診科 ■ リウマチ科 ■ 産婦人科 ■ 放射線科
- 脳神経外科 ■ 神経内科 ■ 耳鼻咽喉科 ■ リハビリテーション科 ■ 整形外科

紹介状をお持ちの方 ■ 内科 ■ 循環器内科 ■ 小児科

まつなみ健康増進クリニック

- 外科 ■ 呼吸器内科 ■ 腎臓内科 ■ 皮膚科 ■ 呼吸器外科 ■ 血液内科
- 大腸肛門科 ■ 形成外科

紹介状をお持ちではない方 ■ 内科 ■ 循環器内科 ■ 小児科

北館
ノースウイング
OPEN!

最先端の医療を、 住み慣れた街で。

地域の中核病院としての役割をしっかりと果たすためにさまざまな機能を揃えた北館(ノースウイング)が誕生しました。今後、地域の皆さんにお届けできる医療やサービスをご紹介します。



ノースウイング稼働に あたって。

2014年7月22日(火)、北館(ノースウイング)が稼働しました。今まで、総合病院としては南館(サウスウイング)のみにおける運用でしたが、今後、超急性期・急性期はノースウイング、その後の回復期・慢性期はサウスウイングで行う体制を整えてまいります。

私たちはつねに、地域の皆さんに最先

端医療を提供することを理念に掲げてきた病棟、コンビニの出店などによって、患者さんにはより快適な療養生活を送っていただけることと思います。

どんなに施設が充実しようと、医療の本質は医療従事者の質にかかっています。適切な診療技術、患者さんへの対応などをいっそう向上させるべく、日々の臨床に力を注いでまいります。

した病棟、コンビニの出店などによって、患者さんにはより快適な療養生活を送っていただけることと思います。

どんなに施設が充実しようと、医療の本質は医療従事者の質にかかっています。適切な診療技術、患者さんへの対応などをいっそう向上させるべく、日々の臨床に力を注いでまいります。



救急や集中治療を強化し 急性期医療のさらなる充実へ。

救急医療や災害に 迅速に対応できる体制

当院の外来患者の内訳を見ますと、2013年に65歳以上の高齢者の方が全体の半数を超えました。今後さらに高齢者が増えるなか、時代の変化に適した医療体制づくりを進めている最中です。その第1ステップが、このたび完成した北館(ノースウイング)です。当院は年間3,500台以上の救急車を受け入れており、1階に設けた救急医療センターは、県道からダイレクトに救急車が乗り入れ



屋上にはヘリポートを設置し、緊急時に備える

できる動線を確保しました。そして、すぐ精密検査ができるよう、センター奥にはCTとレントゲン室を完備。さらに屋上にはヘリポートも設置し、救急医療や災害に迅速に対応できる体制を確立しました。じつは、ノースウイングへの引っ越しのさなか、救急の患者さんが何名も来院されましたが、混乱もなくスムーズに対処でき、新しい救急医療センターの機能を実感いたしました。と同時に、救急患者さんを受け入れる地域の中核病院として、皆さんの信頼にしっかり応えていこうと、いっそう気持ちが引き締まる思いでした。



カテーテルによる治療と開胸手術が同時にできるハイブリッド手術室

集中治療をさらに充実 つねに最善の治療を

救急医療の受け皿となるのが集中治療です。ノースウイングには、南館から移動させたICU(集中治療室)8床に加え、新たにHCU(準集中治療室)20床を用意し、重症患者さんに最善の治療を施す万全の体制を整えました。しかし、いかにりっぱな設備が揃おうと、最も重要なのは医療の質です。早朝の救急カンファレンス、各種研修会や勉強会などを通じ、職員のキャリアアップにも力を注いでいきます。



高精細な画像が得られる3テスラMRI

急性期医療と急性期後の スーパーケアミックスの実現へ

ノースウイングの誕生によって急性期医療は強化されましたが、急性期の患者さんのその後を考えますと、回復期やリハビリも重要な要素です。そこで第2ステップとし

て来年春に向けて南館(サウスウイング)の改修工事を進め、さらなる医療体制の充実を図る予定です。急性期医療と急性期後の医療は、いわば車の両輪。2つの医療に特化した「スーパーケアミックス」を実現できたとき、ようやく当院のリニューアルが完成したといえるのです。

松波総合病院のスーパーケアミックス構想

～質の高い「医療+福祉」の実現に向けて～



一般病棟(4～6階)は定員1～4名のゆったりとした病室



北館(ノースウイング)と南館(サウスウイング)をつなぐ約100mの渡り廊下

松波総合病院
院長 山北 宜由

ICU HCU

生死の境にある患者さんの命を、1人でも多く救いたい。

ノースウイングの開設にあたって、新たに設置されたHCU(準集中治療室)は、重症度の高い患者さんを治療するICU(集中治療室)の受け皿として機能するだけでなく、夜間の救急患者さんを多く受け入れることも可能になりました。ICUとHCUが対象とするのは、生死の境にあるような重症な患者さんばかりです。ここで私たち集中治療専門医は、1人でも多くの命を救おう



HCU(準集中治療室)の誕生によって集中治療の環境がより強化された

と日々努力をしているわけですが、そのためには医療環境の充実も欠かせません。そこでノースウイングでは、技術的に難しいとされていた重症患者さんのバイタル情報の電子カルテ化を実現。これによって、救急医療センター、手術室、ICU、HCUの担当医やスタッフが、どこにいても瞬時にバイタル情報を確認でき、より迅速かつ的確な医療提供を実現



しています。当院は、集中治療専門医研修施設にもなっておりますので、最新の機器やツールなども活用しながら若い医師たちの指導にあたり、これからますます必要とされる集中治療専門医を数多く育てていきたいと考えています。



副院長・集中治療センター長 赤松 繁

Emergency Room

命を授かる職場として、チーム力の向上に力を注ぎます。

ノースウイングの設計段階から携わらせていただき、1階の救急外来、3階の集中治療室や手術室、屋上のヘリポートがすべて、救急専用のエレベーターでつながったことをうれしく思います。空間的なつながりだけではなく、まず最初に患者さんを処置する救急医、それを引き継ぐ主治医(集中治療医)、そしてICUやHCUの看護師たちの連携も非常に重要となります。ですから、個々のスキルアップはもちろんです。チーム力の向上にも今まで以上に力を入れます。また救急外来は、その



救急医療センター長・脳神経外科副部長 八十川 雄図

日によって、待機するメンバーの顔ぶれが異なります。だれが当直であっても、だれとだれが組んでも、つねに同じ医療水準を維持できるよう、日頃から教育を徹底していく考えです。さらに私たちは、命に関わるような状況に直面することが少なくないので、心肺蘇生法、重症外傷の対処方法などをスタッフに徹底的に習得させ、救急医療センターとしての役割をしっかりと果たしていきます。

救急医療センター長・脳神経外科副部長 八十川 雄図

HCUをエキスパート集団に。

新しく誕生したHCUは、ICU、外科、内科、循環器科など、さまざまな職場で経験を積んだ職員が集まっています。それぞれの得意分野を活かし、チームワークに優れた病棟をつくっていきたくいですね。



HCU看護師長
集中ケア認定看護師
長柄 敦子